

# グリーン四国

四国森林管理局

高知市丸ノ内1丁目3-30

TEL 088-821-2000

FAX 088-821-4834

ホームページアドレス <http://www.rinya.maff.go.jp/shikoku/>

電子メール [shikoku\\_soumu@rinya.maff.go.jp](mailto:shikoku_soumu@rinya.maff.go.jp)



四国山の日

No.1088 2010年11月号

## 第6回滑床山植生回復検討会を開催



検討会(現地で説明するふれあいセンター所長)

一〇月二〇日、肌寒い天気の中、県、市町、環境省等の関係機関、有識者等の出席を得て、「第六回滑床山植生回復検討会」を開催しました。

まず最初に、昨年度にシカ防護ネット柵を設置した黒尊山国有林一林班で意見交換をいたしました。ここは植生が消失して裸地化し、土壌の流出が見られるため、昨年度末に一部試験的にムシロ伏せ工を実施した箇所ですが、現在では試験地下側のイワヒメワラビが旺盛に成長しています。参加者からは「周囲の枯れ木などを活用して土壌の流出防止措置を実施してはどうか」の意見が出されました。

次に、平成一九年三月、滑床山山頂(通称「三本杭」)及びその近くの通称「たるみ」で、シカ防護ネット柵内に移植したミヤコザサの生育状況等を確認しました。

山頂では、森林総合研究所四国支所の奥村野生動物害担当チーム長から、モニタリング調査を基に、「移植したササは、今年急激に成長し、昨年平均一五cmだったササが2倍の高さまで伸び、地下茎の発達が広がった」との説明と、一方、ネット外では食害が進み、ニホンジカが食べないアセビが増えるなど生態系に影響が出ているとの報告がありました。

出席者からは、「雨水の流れを止めるのには、枯木などを利用することは効果があると考える」「シカ被害対策として、シカ防護ネット柵の設置だけでは限界があり、頭数調整が必要と考える」等、多くの意見が出されました。

提言された内容については、今後の取組としてさらに検討をしていくこととしました。

〈ふれあいセンター〉



INTERNATIONAL YEAR OF FORESTS 2011

2011年は国際森林年です

「四国山の日  
inえひめ2010」  
開催  
〈指導普及課〉  


一〇月一六日、一七日の両日、愛媛県上浮穴郡久万高原町で、四国の森づくり実行委員会、四国の森づくりえひめ森林ボランティア連絡協議会主催による、「四国山の日 in えひめ 2010」が「四国の森づくりで未来の命を吹き込もうそして感じ伝える大地の鼓動」をテーマに開催されました。

このイベントは、森林の持つ多面的機能を発揮させるため、森林整備、木材利用や森林環境教育活動を地域住民やボランティア、関係機関等との連携・協力して取り組むこととして、平成一六年度に四国四県と四国森林管理局による「四国の森づくりに関する共同宣言」に基づき実施されています。

七回目の今年は、久万高原町において四〇回の開催実績のある「久万林業祭り」に併せ開催しました。

初日は、「四国山の日賞」及び「森林の俳句コンテスト」の表彰式及び伝達式を行い、続いて、緑の少年隊、地元上浮穴高校、大学、企業そして四国山の日賞受賞の各県代表による森づくり活動報告を受け、最後に久万高原町出身の梶川二郎氏の「久万林業と自分史の中の林業経営」と題した講演で一日目は終了しました。

二日目は、「安全技术技能コース」「久万林業祭りコース」「久万林業見学コース」の三分科会に分け、久万林業地を見学しました。


両日とも天候に恵まれ、林研グループや森づくりのボランティア団体等が交流を深め、二日間を終えることが出来ました。



宮原局長による「四国山の日賞」の表彰



分科会見学

第六回森林の  
俳句コンテスト  
入賞者決まる  
〈総務課〉  


今年も六月二四日から九月一〇日まで小中学生を対象に、森林・林業に関する俳

句を募集したところ四国四

県等から一一二校、二、二六  
三句と多数の応募があり、選  
者二名による厳正な審査の  
結果、入賞者が決まり、一〇  
月一六日の「四国山の日 in  
えひめ 2010」の会場で表彰  
されました。

優秀賞

紙面の都合上、入賞作品の  
内、四国森林管理局長賞、最  
優秀賞、優秀賞を紹介しませ  
う。

紙面の都合上、入賞作品の  
内、四国森林管理局長賞、最  
優秀賞、優秀賞を紹介しませ  
う。

優秀賞

紙面の都合上、入賞作品の  
内、四国森林管理局長賞、最  
優秀賞、優秀賞を紹介しませ  
う。

小学生の部

四国森林管理局長賞

愛媛県今治市立常盤小学校  
六年 高橋 翔

中学生の部

四国森林管理局長賞

「ブナの森耳を澄ませば水の  
音」  
最優秀賞  
香川県高松市立屋島東小学  
三年 関口 凜

「金色に木々を染めゆく初日  
の出」  
最優秀賞  
高知県大豊町立大豊町中学  
一年 都築泰成

「亡き祖父のもの木実がな  
る八年目」  
最優秀賞  
香川県さぬき市立石田小学  
島

「雲海に朝日が照らす山の  
島

「雲海に朝日が照らす山の  
島

「雲海に朝日が照らす山の  
島



森林の俳句コンテスト各賞受賞者

優秀賞

愛媛県今治市立大西中学校

二年 別府信彦

「うつそうと茂るふもとの休憩所」

優秀賞

愛媛県松山市立湯山中学校

三年 林 章史

「木に登り夕日を見ながら秋を待つ」

優秀賞

高知県本山町土佐町中学校

組合立嶺北中学校

三年 森 咲百合

「葉に垂る赤い雫は天道虫」



高知市帯屋町での街頭募金

緑の募金」秋の募金活動が、  
「緑の募金でふせごう地球  
温暖化」をスローガンのもと、  
(社)高知県森と緑の会主催  
により、一〇月九日高知市  
の中央公園及び帯屋町筋で  
行われました。  
募金活動では、街行く人  
に「緑の募金」が高知県内  
の森づくり活動などに使わ  
れることで、良質で安定的  
な水の供給や、安心・安全  
な生活環境の保全に役立つ  
ていることなどを訴え、募  
金協力を呼びかけました。

「秋の緑の街頭募金」  
「私もお小遣いを  
募金します」  
〈指導普及課〉

一〇月四日、高知県安芸  
郡馬路村千本山保護林にお  
いて、高知県立高知農業高  
等学校森林総合科の一年生  
二〇名を対象にした森林環  
境教育を実施しました。今  
年度は、既に六月に二、三  
年生を対象にした現場実習  
等を行なっています。  
登山口の、千年橋を渡る  
と「森の巨人たち百選」に  
指定されている『千本山橋  
の大杉』(幹周六八〇cm、樹  
高五四m)があります。橋  
の大杉の大きさを体験する  
ため、幹周六八〇cmのロー  
プの輪の中に森林総合科の  
生徒が一八名入る事ができ  
ることを示すと、全員ビツ  
クリしていました。  
また、高度計を使用して  
地図上で標高を確認したり、  
スギの植栽試験地にて、ニ  
ホンジカによる食害状況を

高校生現場実習  
「農業高校生を対象に  
した森林環境教育を実施」  
〈指導普及課・  
安芸森林管理署〉



デジタル測高器で計測

見学するなど、登山口から  
親子スギまでの間に、千本  
山保護林内のヤナセスギの  
特徴、森林の機能などに  
ついて学びました。  
更に、親子スギ周辺でデ  
ジタル測高器を使用してヤ  
ナセスギの樹高計測を行い  
樹木の炭素現存量を計算し  
ました。そして森林が地球  
温暖化の防止に役立ってい  
るといふ説明を聞き感心し  
ていました。  
今回の森林環境教育を終  
え、森林に対する関心を高  
め、国有林の業務や、森林  
の持つ働きの重要性につい  
て理解できたようでした。

各地のたより

焼きミカンの  
出来上がり  
—炭焼き体験—  
〈ふれあいセンター〉

九月二八日、愛媛県松野  
町立松野西小学校四年生が  
炭焼き体験をしました。  
最初に、ウバメガシなど  
の炭の材料や作り方のほか、  
白炭や黒炭、竹炭などの種  
類があることを学習しまし  
た。  
家庭ではキャンプなどで  
のバーベキュー以外にはあ  
まり使われなくなった炭で  
すが、脱臭剤や土壌改良な  
どの環境改善のために使わ  
れていることも学びました。  
次に炭焼き体験です。児  
童たちは事前に自分が炭に  
してみたいものを持ち寄り、  
モミ殻と一緒に空き缶に詰  
めました。マツボックリ、  
ドングリをはじめ、ひょう

たん、トマト、ピーマン、ミカンなど様々です。それを火の中に入れて約一時間、中の材料の水分が無くなり、炭になるのを待ちます。やがて缶から出る煙の色が変わり、煙が出なくなったら出来上がりです。

うまく炭になっているかどうかドキドキしながら缶の蓋を開けます。

マツボックリやひょうたんはきれいな炭になりました。しかし、短い時間で作るため、水分の多い野菜などを入れた児童は、「焼きミカンになった」「トマトはぶよぶよ」になってしまいました。

それでも一緒に入れたダングリなどがそのままの形で炭になっているのに驚いていました。

失敗もありましたが、いろいろなもので炭ができることや様々な用途に利用されていることを学び、森林

や自然について興味や関心を持つてくれることと思います。



ひょうたんの炭ができたよ

手作りブランコに大喜び  
(八面山森林体験学習)  
〈ふれあいセンター〉

キオンの花が咲きアサギマダラが羽を休め、秋の装いを見せている八面山に、一〇月四日には、愛媛県松野町立松野西小学校四年生二八名、一〇月一日には、高知県四万十市立川崎小学校五年生一三名を迎え森林体験学習を行いました。準備運動の後、登山口を出発し、歩道沿いの樹木やニホンジカの食害などを学習しながら、約五〇分で八面山山頂(一、一六五メートル)に到着しました。

山頂では、遠くに見える三本杭(滑床山一、二六六メートル)が、土佐藩、宇和島藩、吉田藩との領地の境として杭を立てたことから「三本杭」と呼ばれるようになったことを話すと、児童達は驚いていました。

その後、近くのブナ林へ移動して、森林のもつ様々な働きについて、紙芝居で説明しました。「森林の働きについて、知ってますか?」の質問に、水を蓄える、山崩れを防ぐ、環境を守る等、活発に答えてくれました。

学習の後は、ブナの大木にロープを掛けた手作りブランコに「怖い」と言いながら何度も挑戦していました。

児童達は、八面山登山や森林教室を通じて、森林の働きと大切さを学び、また、ブランコにより楽しさを体験し、忘れられない秋の思

い出となったことでしょう。



怖く楽しいブランコ

アイデア満載の木の小物作り  
〈徳島森林管理署〉

一〇月一三日に徳島県三好市立名頃小学校において、名頃小学校児童二名と菅生小学校児童五名を対象に木工教室を行いました。当署では公募によって森林教室などを開催していますが、この木工教室は、後期のスタートとなるものです。材料は広葉樹の木片や種子を利用し、昆虫や鳥などを見本に各自、自由にアイ

デアを巡らせて製作にとりかかりました。

始めは見本どおりに作る児童がほとんどでしたが、すぐに見本にはない物を全員が作り始めました。お互いに完成したのを見せ合い、そこからまた新しいアイデアを貰って次のものを作っていました。

最後に、多くの児童から「楽しかったのでまた作ってみたい。」という感想をもらいました。職員の方からも「二時間が短く感じた。」

また、児童にとっても外部から来た人と接するいい経験になった。」という感謝の言葉をいただきました。

当署では、地域や学校などの要望に応え、今後とも森林環境教育を実施していきたいと考えています。





オリジナルの木工作品作製中

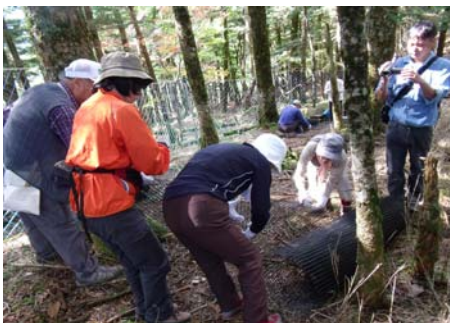
県、NPOと  
シカ対策を実施  
〈徳島森林管理署〉

一〇月一日、徳島県、県下のNPO団体等と協力して、三嶺（一、八九三メートル）東斜面のダケモミの丘と呼ばれる国有林で、樹木ガードを設置しました。

三嶺周辺でも、南斜面のカヤハゲと同様にニホンジカの増加が問題となっており、山頂付近のミヤマクマザサ及びコメツツジ群落（天然記念物）や麓のウラジロモミ林などが深刻な被害を受けています。すでに

林床のスズタケは、ほとんど枯死している状況です。今年五月には、行政や自然保護団体等からなる剣山ニホンジカ被害対策協議会が組織され、シカ対策を連携しながら推進することとしており、その一環として山頂付近の民有林及び国有林に県がシカ防護ネット柵を、また、当署においても、昨年引き続きダケモミ付近のモミ林周辺にシカ防護ネット柵を設置していますが、今回は、この間の尾根にボランティアの協力をいただいで樹木ガードを設置したものです。

作業には、徳島県自然環境課、NPO三嶺の自然を守る会、徳島県山岳連盟などから三七名の参加があり、三嶺林道駐車場で開会式を行った後、ダケモミの丘まで登り、登山道沿いのモミなどを三人一組で樹木ガードを巻いていきました。資材は、事前にシカ防護



樹木ガード設置

柵と併せてヘリコプターで空輸し、準備をしていたものをしまいました。往復に時間を要するために短時間の作業でしたが、一二四本の樹木を保護することができました。

また、当日は快晴の祝日とあって、行き交う登山者にもシカ被害の深刻さと関係者の地道な取り組みの一端がわかってもらえたと思います。

当署では、今後とも県やNPOなどと連携して、シカ対策を実施していきたいと考えています。

東祖谷直轄治山  
推進協議会を開催  
〈徳島森林管理署〉

一〇月二〇日、三好市東祖谷総合支所において、第三四回東祖谷民有林直轄治山事業推進協議会が開催されました。

これは、民有林を対象とする直轄治山事業の円滑な推進を図るために昭和五〇年から開催されているもので、当日は三好市、三好市議会、三好市東祖谷総合支所、吉野川漁業組合のほか、地元から世話役、各地区実行委員の参加がありました。

会議は、三好市産業観光部長の開会の挨拶から始まり、続いて、当署長から治山事業を巡る最近の厳しい情勢を含めた挨拶を行った後、あらかじめ地元から提出されていた要望に対し、治山課及び祖谷川治山事業所から回答する形で進められました。



推進協議会

地すべり防止事業は、昭和二七年度から鋭意、実施されていますが、祖谷地区は地すべりや崩壊が多発する御荷鉾構造線沿いにあることから、いまだに地元住民には不安感があるようで、地元から多くの要望が寄せられました。当署は地域住民との対話を通じて円滑な事業を実施する考えであり、更に地元の協力をお願いして散会しました。

当署としては、民有林直轄治山事業の推進を通じて安全・安心の国土づくりに努めるとともに、今後とも地域の信頼や幅広い理解と協力を得るように努めるとしてまいります。

ウッドフェスティバルに参加  
 〈香川森林管理事務所〉



一〇月九日、一〇日の両日、高松市のサンメッセ香川において、「2010ウッドフェスティバル」が開催されました。このイベントは、木材の利用推進を目的に、木材関連団体等が各種催しや即売会を実施しているもので、当所も毎年参加しています。

当所では、つるかご編み教室とシイタケの菌打ち体験を行いました。つるかご編み教室では、職員が講師となり、子供から大人までが個性的なかごを完成させました。また、シイタケの菌打ち体験では、菌打ち用のハンマーやドリルでほだ木に穴をあけ、ハンマーで菌の駒を打ち付ける体験を行い、菌を打ち付けたほだ木は参加者にプレゼントしました。

どちらのイベントも盛況で、特につるかご編み教室は「毎年来ています」という方もおり、人気ぶりがかがえます。シイタケの菌打ちも体験したことがない人が多く、楽しんで行っているようでした。

このようなイベントを通じて、森林や国産材の利用について関心を持ってもらえたらと考えています。



つるかご編

JAM一〇周年  
 記念植樹  
 〈香川森林管理事務所〉



一〇月一六日、東かがわ市の兼広国有林において、JAM一〇周年記念植樹が

実施され、二九名が参加しました。

JAMは、機械・金属を中心とした単位労働組合が加盟する産業別労働組合です。今回の植樹は、JAM結成一〇周年記念行事の一環として、JAM四国青年協議会が中心となり実施したものです。

はじめに、当所職員が植樹方法を説明した後、早速植樹を開始しました。参加者は、普段の職場とは違う急斜面の作業条件や使い慣れない鋏に苦労しながらも、ヤマザクラ、ヤマモモ、イロハカエデ、クスギを一本一本丁寧に植樹していました。

参加者からは、「思いのほか土が固くて石が多い。畑とは違う。」といった感想が聞かれ、山の作業の大変さを実感したようでした。

作業は一時間ほどで終了し、最後に記念撮影をして行事を終えました。

来年からは、下刈りを行

うこととしています。



植樹

観音寺市立観音寺東  
 小学校森林教室開催  
 〈嶺北森林管理署〉



一〇月六日、工石山自然休養林で香川県の観音寺市立観音寺東小学校五年生四名（教員四名）を対象に森林教室（間伐体験）を開催しました。

最初に、当署職員から間伐の必要性や実施方法などについてパネルを使って説明を行った後、七班に分かれて間伐を行いました。立木を伐る体験はもとより、鋸を扱うこと自体が初めて

の子どももおり、慣れない

ながらも児童たちは、一生懸命に鋸を挽いていました。「メキメキ」という音とともに間伐木が倒れると、「わあーっ」という歓声が響き渡りました。そして間伐の前と後では林内の明るさがいぶん違うということを感じとり、間伐作業の大切さを実感していました。

その後、間伐した木を利用してコースター作りに挑戦し、できたてのコースターの匂いを嗅いだり、友だちと大きさを比べたりしていました。

一方、工石山青少年の家では間伐に参加できなかった児童・教員が、木を輪切りにした板の上に、サクラやシヤラの木（別名ナツツバキ）の枝などで作ったリスやクマの置物を飾り付け写真立てを作りました。

最後に、子どもたちの代表からお礼の言葉とともに、「鋸を挽くのは大変だったけど木が倒れた時は嬉しか

った」などの素直な感想が聞かれ、有意義な森林教室となったようでした。



間伐体験

**ニホンジカ食害  
防護柵を設置**  
〈高知中部森林管理署〉

一〇月一七日、当署と「三嶺の森をまもるみんなの会」の主催により、シカ防護ネット柵などを設置しました。この柵は、三嶺山系のササやツツジ類などをシカの食害から守るだけでなく、土壌の流失を防止するためにも重要なものです。今回の作業には、物部川流域の住民の方々を中心に、

総勢百名余りが参加してくれました。参加者は、紅葉が始まった美しい三嶺の頂上を見わたすことができる、白髪分岐の周辺で作業を行いました。資材は既にヘリコプターで現地に運んでおり、運び上げる荷物は道具だけでしたが、かなり急峻な歩道を片道一時間ほど登って行かねばならず、途中何回も休息をとることになりました。

今回、作業を行う白髪分岐周辺のササ原は、最近ニホンジカの食害が急速に進み、大部分が枯れた状態になっています。今回の作業では、ササ等の保全と土壌の流失防止を図るため、周囲が二〇センチの柵を三箇所を設置しました。また、登山道周辺にある樹齢二百年のモミの木をニホンジカの食害から守るため、ネットを一本一本木の根元に丁寧に巻き付ける作業も行いました。

今年四月に設置した柵内

では、青々と茂ったササ類がみられ、参加者からは「柵づくりで苦労したかいがあった」との声が上がりました。今後も、ニホンジカの食害から三嶺の森を守る作業は引き続き行っていきます。ぜひ一度、自然が多く残っている三嶺に来てみて下さい。



シカの食害からササ原をまもる柵を設置

**山の学習で森林教室  
段ノ谷山天然杉の  
名札作製と環境学習**  
〈安芸森林管理署〉

一〇月一七日、室戸市段ノ谷山国有林において、佐喜浜の源木を育てる会（会長 長田村拓氏）と安芸森林管理署が協力し、公募で選ば

れた地域の方々が（子供九人・大人三八人）が参加して、段ノ谷山の天然杉の名札の作製及び設置、森林の働きが環境に及ぼす影響について森林教室を行いました。段ノ谷山登山口では、一班ごとに決まった参加者が、二班に分かれた参加者が、班ごとに決まった杉の名札をそれぞれの思いを込めて作りました。

参加者は、製作した名札を持って、設置する天然木に向けて出発し、途中、署員による樹木の説明を聞き、また、手作りのボードコーンを使って鳥との会話に感激しながら、天然杉群の入口に近づきました。最初の天然杉、「ハロー杉」に遭遇したときは、杉の表情に感嘆の声を上げていました。これから順番に名札を設置し、順次天然杉を鑑賞しながら散策しました。

昼食後、当署職員が「森林の働きが環境に与える影


響について」の説明を行い、森林の働きなどについて認識を深めて貰いました。

その後、残りの名札を順次設置していき、天然杉を見て名前に納得したり、天然杉の表情に見とれていました。今回、特に「大杉」については、全員で名札を作製し設置しました。参加者は、いろいろな天然杉の表情を見て感激し、このように表情豊かな天然杉にビックリし、楽しい一日を過ごしました。



大杉にて

奈半利小学生が  
「野根山街道」を歩く  
〈安芸森林管理署〉



一〇月二二日、奈半利小学校の六年生一七名、先生・保護者十三人が「野根山街道」を歩きました。

これは、奈半利小学校の伝統行事として約三〇年間続いており、野根山街道各所の史跡を訪れ郷土の歴史に関心を持つ、きまりを守り集団行動を身に付ける、長い道のりを歩き抜く体力や精神力を養うことを目的として毎年行われているのです。

子供達は事前学習として、地元の人に史跡について説明を聞き、署が用意した野根山街道地図などを勉強して当日を迎えました。

学校で出発式を行い、署長から野根山街道の話、野友首席森林官から登山に当たったの注意事項の説明を受けました。代表児童から、

「野根山街道の自然、史跡を楽しく学んできます。」と力強い挨拶の後、バスで蛇谷登山口へ向け出発しました。今年は、岩佐関所跡から米ヶ岡までの約一二kmを約五時間かけて歩く行程です。

一〇時に岩佐の関所を元気に出発し、最初に急な登り坂を登ると鳥のさえずりで挨拶を受け、手作りのバードコールで返事を返し、児童達は、鳥との会話を楽しみました。奈半利町が一望できる装束峠展望台のすばらしい景色は、あいにくかすんで見えませんでした。山を貫く街道の雰囲気は十分味わうことができました。

有名な宿屋杉で昼食を楽しみ、午前中の疲れも回復したところで、一路米ヶ岡を目指し出発しました。班ごとに児童・保護者は、一人の脱落者もなく最後まで元気に歩きぬきました。かつて小学生の時に歩き、今


再び子供と一緒に歩かされた保護者もいて、大変楽しかったと感想を述べられています。

学校に着き、児童の代表が「みんなで励まし助け合って歩いたことは、思い出として残ります。この経験を残りの学校生活に生かしていきたい。」とすばらしい挨拶で今回の行事を締めくくりました。子ども達の良い思い出となるとともに、児童・保護者が共有して、森林の中でいろいろなことを目で見て体で感じたことが大変有意義だったのでないかと考えています。



宿屋杉で記念撮影

嶺北県庁とともに  
参加でブービー賞  
―六五回本山町職域体育大会―  
〈嶺北森林管理署〉



一〇月一七日に第六五回本山町職域体育大会が開催され、当署も、徳島署やご家族の応援を得て参加しました。

今年、嶺北県庁（高知県中央東土木事務所本山事務所外）と相談し、合同チームとして臨みました。

結果は、綱引きでは今年も相手を秒殺で粉砕し、スプリンリレーでは女性チームが三位と健闘、そして今年度新採二人の活躍等がありました。昨年よりちよつと上、ブービー賞にとどまりました。

「よく頑張った」という思いと「嶺北県庁に申し訳ない」という思いと複雑な気持ちになりましたが、嶺北県庁の方に、「また来年もいっしょにやりましょう」と言って頂きました。

反省会では、次長提供の写真を見ながら、秋空のものと汗をかいた爽快感、珍プレーを思い出しながら、ブービー賞品であるお酒をいただきました。そしていつのまにか、職員の子どもさんたちと、まんが教室となりワイワイガヤガヤと楽しく一日が終わっていききました。



職域体育大会（綱引き）







大正森林事務所

首席森林官 外山正明

大正森林事務所は高知県の西部、高岡郡の南端に位置し国有林と官行造林を併せて約二、八〇〇畝を管理しています。

管内は森林が多く平坦地に乏しい中山間地域で、四万十川本流と支流の榊原川が合流する田野々を中心にして河川に沿って集落が点在し、標高一五〇〜九〇〇メートル、年平均気温一五℃前後、平均降水量は約二、七〇〇mmと森林資源の育成に適した気候で、水と緑の山に囲まれた閑静な所です。このように水も空気も清らかな自然に恵

まれた地域には明治二六年に酒造りを始めた蔵元があり、健康で安全な四万十の栗焼酎『ダバダ火振』が作られています。ちなみにこの『ダバダ火振』の由来は、山深いこの地の、かつて村人たちの集いの場所だった「駄馬」と清流四万十川の伝統的漁法で、松明の火をふりながら鮎を追い込む「火振り漁」に因んでつけられたそうです。私も嫌いな方ではないので仕事の後は地元酒に癒されています。

の上部からモミ・ツガ林、シイ・カシ林、アカマツ林など、ヤブツバキクラス域の自然植生が繁茂しています。また、県境付近の山頂には、ブナ林も部分的に点在しています。現在では大部分がスギ・ヒノキ植林となり、この中にシイ・カシやアカマツ林などが点在する状態です。特に、この地域には国の絶滅危惧種ⅠB類に属するヤイロチョウが生息しており地元の保護団体が大正町に二一畝の「ヤイロチョウの生息する森」を購入し、生息数や繁殖状況、営巣地の安全を確保等に取組んでおり、隣接する国有林においても今後の施業方法についてきめ細やかな森林整備が必要であると考えます。

現在、大正森林事務所は森林官と係員、基幹作業職員四名で保育間伐、除伐を中心とした森林整備をはじめ、森林保全管理、林道測定、林野火災予防・不法投棄等の巡視などの業務を行っていています。請負では、間伐作業について、搬出型事業を計画的に進めるため、林内トラック道や幹線路網を組み合わせた、五ヶ年計画を作成して進めています。

私達の職場は自然が相手であり、森林の持つ多面的機能の高度発揮は勿論、将来的に目指していく森林の姿を考えつつ、今後とも業務をはじめとして地元の各種行事などを通じて地域の皆さんの声にも十分耳を傾け、国有林としての使命である信頼される「森林事務所」となるように今後も研鑽・努力していきたいと思っています。最後に、今年度の大正森林事務所の安全目標である「基本動作の確認と周囲の確認もう一度！」を心に刻み無災害で取り組んでいきたいと思っています。



須崎労働基準監督署との合同安全パトロール

